

2024年度 第6回10月期定例番組審議会議事録

1. 開催の日時 2024年10月16日(水)
2. 開催の場所 栃木放送本社会議室
参加できない委員には資料を送付して番組をお聞きいただき、意見・感想を返信してもらう形式で開催。
3. 委員の出席 委員総数9名
返信総数2名
出席総数6名

出席委員名	委員長	増田仲夫
	副委員長	河又弘子
	委員	竹内明子
	委員	石松英昭
	委員	高橋久夫
	委員	小川俊彦
	委員	藤原紀沙
	委員	井出智子

4. 議 題

(1) 「須賀由美子の四季をうたう」

放送日 毎週日曜日 14:00~14:30 放送中

試聴素材 6月9日、8月11日放送

(2) その他

5. 議事内容

(1) 「須賀由美子の四季をうたう」について

番組視聴：放送した番組を各委員に送付して試聴して頂きました。

議題説明

フリーアナウンサー・須賀由美子がパーソナリティーを務める30分の録音番組。
毎週、季節をイメージしたオリジナルの短編ラジオドラマと、季節に合わせた楽曲を放送。
ラジオで季節を感じてもらおう30分。月ごとにメッセージテーマをもうけ、リスナーからのメッセージも紹介。今回のオンエア素材は、6月9日・8月11日に放送したもの。
6月のオリジナルドラマは「ツバメ」をイメージした内容の「泥の住処」
8月のオリジナルドラマは「お盆」をイメージした内容の『太陽は入道雲の上から』
番組ディレクター 菅沼 惇史

各委員からは

○須賀さんって、以前に転生ラジオドラマに出てた方ですよ。だからこのジャンルが得意な方なんだなって感じます。須賀さんの明るく素のトークや選曲、軽くて楽しいドラマ構成も、季節感をうまく表現できていると思います。視覚的なイメージが浮かぶ感じもあって、脚本の良さが出てますね。さらに、トークの背景に音楽が流れていたり、リスナーからの季節感や地元の話が入っていたりと、全体的に構成が安心感のある作りになって良い印象を受けました。また、須賀さんのSNSとも連携しているので、ファン層の広がりも期待できるかなと思います。ただ、残念なのは放送時間ですね。日曜の昼間で聞く層を考えると、ドライブ中の若い人が多いのかなと思う一方で、AMラジオで聞くリスナー層にはどうかなという気もします。明るいドラマ構成も悪くないですが、アニメ風の軽いシナリオが苦手な方もいるかもしれません。万人が満足するのは難しいと思いますが、季節感を感じさせるために現代詩やエッセイ、小説の朗読を交えたしっとりした演出を入れるのもいいのではないかと。須賀さんなら、その表現力が発揮できると思いますし、好印象を持ちながらもいろいろ感じさせてもらいました。

○季節を感じられる番組っていうのはいいと思います。で、パッケージとして売ってるのを読んでるだけなのかなとかも思ったんですけども、ドラマはオリジナル、ここはすごいと思った。ただ私も既視感を感じるドラマだなとは思った。でも、季節を感じることができてとてもよかったですし、選曲も良いと思いました。私が知らない曲ばかりでしたが。以前の番組審議会で、全然曲とその日のテーマと合わないのがありますねって言ったことありましたからそれに比べこの番組は季節を感じられてよかったと思います。あとは、この番組のターゲットはどこに設定してるのかなっていうのが1番感じたことです。この須賀由美子の四季をうたうっていうタイトルを聞くと、もっとしっとりと叙情的な、もっと落ち着いた声の方が朗読をしてくれて、で、やっぱり四季はいいね～みたいに改めて思う番組なのかなと思って聞き始めたら、結構須賀さんの声が、好みの問題もあると

思うんですけど、私には高音がうるさく感じて、アニメ好きな小中学生とか、あとおじさんアニオタなおじさんとかをターゲットにしているのかな。とか思ってしまうのが悩ましかったです。でも、日曜日午後2時という時間帯だったら、この四季を歌うっていう番組じゃなくて、もっとアニメだとか今時の話で展開してもいいのかなと。ドラマはいいと思うので、年齢にあった声キャラにしてもらえるといいかなと。さらなる改良を期待したいと思えました。

- 季節にちなんだ音楽や物語を通じて、リスナーに季節の移り変わりを感じてもらおうという、この番組のコンセプトは非常に明確であり、一貫性のある構成によって伝わってきました。全体を通して非常に聴きやすく、楽しめる番組だと感じました。パーソナリティである須賀由美子さんの声質が柔らかく心地よく、番組の選曲とも調和していたため、聴いてとても爽やかな気持ちになりました。番組全体を通して、明るくも落ち着いた雰囲気を感じられました。また、若いリスナーの方からのメッセージが紹介されていたことから、若い方にとっても聴きやすい内容であるのではないかと思います。ラジオドラマの部分については、少し気恥ずかしさを感じるころもありましたが、その控えめでどこか懐かしい雰囲気が番組全体のトーンとマッチしていたと感じました。
- 車の中で須賀さんの声を聞いていたんですけど、強弱があって良い声でしたね。ただ、癒されすぎて運転中に少し眠くなっちゃいました。夜に聞くと心地よって言われるのも納得です。オリジナルドラマは2つありましたが、6月の方は話の流れがちょっと分かりにくいと感じました。8月の方は、高校生が亡くなってしまうお盆の話で、少ししんみりするものの、最後は明るく終わって聞きやすかったです。また、曲もドラマにぴったりで、とてもマッチしていたと思います。
- 音楽については、どちらも番組の趣旨に合っていて良かったと思います。ただ、ドラマの『つばめ』の方は脚本をもう少し工夫する必要があると感じました。出演者の演技も正直ちょっとひどくて、もう少しリスナーに向けた丁寧な作りにした方が良いと感じた。お盆のドラマの方はそれなりによくできていたと感じました。30分番組というのはパーソナリティの色を出すのが難しいと思いますが、その人の深さが影響を与えるので、特に高齢者への回答は少し慎重になった方が良いのではと感じました。人生の終わりに向き合っている方への配慮がもう少し必要なのかもしれない。全体として番組の内容をもう少し練った方が良いと感じました。

○リスナーからのお便り、ラジオドラマがあって、ラジオらしい番組だなと思いました。日曜の午後にアナウンサーの軽快なトークを聞きながら、リスナーがコーヒーを飲んでまったり楽しめるのは良いですね。ただ、この時間帯に若い人がリアルタイムで聴くかは少し疑問で、ターゲットをもう少し上の層にしてもいいのかなとも感じました。それと、お盆のラジオドラマについてですが、私には娘がいるので少し切なくなり、最初は聴けましたが、その後、2回目は想像してしまってもう聴くことができませんでした。

○番組で流れていた曲、すごく合っていていい感じだったんですが、タイトルが1回サラッと聞かれただけで、聞き取れなかったんですね。最後のエンディングでも『いい曲だな』と思ったんですが、やっぱり分からなかったです。須賀さんの声は爽やかで聞きやすいけれど、年齢的には少しトーンを落としてもいいかなと感じました。内容に関しても『うまいこと言うな』とは思ったんですが、アニメっぽい感じで、アニメ好きの方には分かりやすいと思います。個人的には嫌いじゃないですけどね。それから、番組のターゲットが時間帯に合っているかもちょっと気になりました。また、メール募集もしていたので、どんな反応が来ているのか興味がありますね。お盆についてもいい内容が出ていたと思いました。

○季節に合ったテーマで6月のつばめ、最初の歌はほたる。季節を感じました。物語は、二人を主人公にした兄と妹の会話。つばめの家づくりと巣立ちに関連づけされており、失敗にくじけず大きく羽ばたいてほしい兄弟愛も感じられました。歌4曲の曲調、物語も6月という四季によく合っていました。夜聴くと心地よくなりそうです。物語を聴いているうちに、なんとなくストリートも分かってしまい、素直でない人は「そうね」と感じた人もいたかもしれません。市内に住んでいると、昔よく見た燕、蛍をすっかり見かけることもなく、猛暑の影響等もあり四季を感じる感覚が遠のいている気がします。最初物語を聴いていて、何の話だろうと思っていましたが、聴いていくうちに分かってきました。現代風だと、あまり重苦しくなくこのようなストーリー仕立てになるのかもしれませんが。お盆は、亡くなった人も含めて親類の人と会う機会でもあります。コロナを経てどうなるかと感じていましたが、やはり集えるのは良いことだと感じています。四季折々の食べ物・文化等は伝承していくことは大切だと感じています。また、日々忙しくしていると、季節感を忘れがちですが、祝日なども生活に変化を与えてくれます。このようなことを感じた番組でした。

当社としては、これらの意見をもとに、今後の番組制作や広報に取り組んでいきたい旨を、各委員に伝えた。

(2) その他

6. 審議内容

上記の通りであり、特に審議決定し、答申すべきものはなかった。

7. 番組審議会の意見の概要の公表

- ① 当社の番組「栃木放送からのお知らせ」（2024年11月10日）
- ② 当社のホームページに掲載（2024年11月11日）
- ③ 当社事務局に議事録備え置き（2024年11月11日～）

以上